

# 主題 「勝利を得る者の教会」 「初めの愛に立ち返る教会」

有賀 喜一\*

(ヨハネの黙示録 2:1～7)

2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。

2:2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。

2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。

2:4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

2:5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。

2:6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。

2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べさせよう。』

## 序

アジア地方の主都はペルガモであったが、エペソは事実上この地方最大の都市で、断然他を引き離していた。

①ヨハネの時代では、エペソはアジアで最大の港であった。

②エペソは政治的な特権が与えられ「自由都市」であった。

③エペソはアルテミス神礼拝の中心地であった。

④異教的な迷信がはびこっていた地である。

⑤エペソには6つの異なった種族から成っていた。

一見伝道の不毛の地と見られたエペソで、パウロは他のどの都市よりも長く滞在して伝道した。キリスト教信仰の勝利の力を力強く実証した町である。またエペソは、7つの教会の最初の教会に記録され、アジアの教会の代表とも言えます。

## 1. イエスに完全に知られている私たち 2:2.3.6

行い、労苦、忍耐、似て非なる者たちの霊の見分け、思いやり、疲れを知らない、敵対する者への勝利の確信

実際にエペソ人への手紙の中でイエス様がどんな風に愛をあらわされたかをパウロが記しています。

「すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。」(エペソ 1:4~5)

「罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」(エペソ 2:5)

「こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。」(エペソ 3:17~19)

私達は救われた後、更に父なる神の愛は、私達を信仰によってキリストを内に住まわせて私達を常に愛に根差して、愛を基として、立て上げて下さると言っておられます。

「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」(エペソ 4:2)

対人関係においても愛の関係を結んでいくのです。

「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備

えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」(エペソ 4:15-16)

個人個人だけでなく、愛のうちに教会がつながって、たてあげられていくような愛を表しています。

「ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。」(エペソ 5:1-2)

このように私達が神様の前にクリスチャンとして、自分の教会だけでなく、他の教会の人達、日本、アジア、世界のすべてのクリスチャン達と共に愛のうちを歩み続けていくようにとっておられます。

インドでは、毎日何十万という人が変異種のコロナで、亡くなっています。インドの牧師先生の中には、日本のように防備服の体制も十分とれないまま、感染している人達を助け 2000 人程命を落とされ、その死を通してリバイバルが起こっているとお聞きしています。

「どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。」(エペソ 6:23-24)

エペソ人への手紙の中で、個人、グループ、教会全体と、神様の愛のレベルが引き上げられ、神様の愛がまさに働かれるということがわかります。このパンデミックの中で、私達はとことんイエス様に知られていることを信じて感謝しましょう！

## 2 イエスに完全に見抜かれている私たち 2:4

イエス様は真実をもって無限の愛を私達に注ぎ続けておられます。でもこの愛は一方通行で終わりたくない、私達からも愛を受けたいと願っておられます。神様がまずイエス、キリストという御方をこの世に送って下さって。私達のなだめの供え物として命までも捨てて下さいました。これによって私達は愛ということを知りました。

世の中の価値観の愛は、「あの人はいい人だから」とか「助けてくれるか

ら」などの「～だから」の愛です。しかし、イエス様が私達に表されたのは、「～にもかかわらず」の愛です。普通「にもかかわらず」は応答が出来ません。私達のとりまく世界の中で「にもかかわらず」愛していくのです。どうにもならない現実であっても、私達は神様に対する真心をお返ししていくのが大切です。イエス様は、私達が初めの愛から離れたと見抜いておられました。

初めの愛から離れてしまったとは

- ① 最初の熱意が消えてしまった。
- ② クリスチャンの交わりの中の最初の感激、兄弟姉妹に対する愛が薄れた。

私自身、初めてイエス様を信じた時、両親から迫害を受けました。週二回、夜の集会から戻ると家に鍵がかけられ、私は7年間、その度にうさぎ小屋で寝ました。でも私が救われた教会は愛の教会で、婦人会の会長さんがいつも食事に誘って下さいました。そして私は救われて、まだ洗礼を受ける前にすぐ献金を捧げました。私はすべての小遣いをストップされていたので、早朝新聞配達をしてお金を稼いでその10分の1を神様に捧げました。そんな私の状況を知ってか、教会で、握手の時にお金をそっと渡される事も何度かありました。本当にどんなに家で迫害されても、私は、教会の聖歌隊や日曜学校のお手伝いをして喜んで教会生活を楽しんでいました。7年後母が救われ、そのあと7年後、余命3ヶ月と言われていた喉頭がんの父が癒され救われました。この姿を見て親戚が救われ、私の家族全員がキリストを信じる家族になりました。

イエス様が見抜いておられたのは、個人、教会委員同士、教会を通して周りのイエス様を知らない人にどれだけ愛を表しているか、3つのレベルで、初めの愛から離れていると指摘されるのです。

現在、コロナが世界を風靡している中で、ある教会ではパンデミックが終わってから伝道ではなく、こういう時だからこそ出来る伝道をしておられます。(祈り、文書伝道、チラシ配布など)スリランカでは食糧配布をして伝道しておられます。その結果、一般的な教会の活動よりも、より細やかな伝道が進められています。

神様は一人一人の生き方の中に、神に倣う者になりなさいとお互いに神を愛すると共に、心の底から兄弟姉妹を愛し、まだイエス様を知らない人に対して神の愛を表していく、そういう事でイエス様は私達を見抜いておられます。時間や金銭の使い方、能力の用い方を通して本当の私達の真心をイエス様は見抜いておられます。そしてイエス様は、この程度の信仰でいいと妥協されません。神様は100%で愛する愛を求めておられます。

### 3 イエスに完全に立ち返る私たち 2:5~7

#### ① 思い起こしなさい (Remember)

自分のクリスチャン生活は、どこから、いつからイエス様に対する愛、兄弟姉妹に対する愛、まだ救われていない人への愛が薄れていったのか思い起こしなさいと言われていました。

#### ② 悔い改めなさい (Repent)

悔い改めるとは、自分を悔いるのでも反抗的になるのでもありません。自分自身がどこからおちたのかを思い起こして、はっきりその理由をつきとめて、心の底から自分を空しくし、方向転換をすることです。新しい道を大胆にとりあげていくことです。

#### ③ 初めの行いをしなさい (Redo)

放蕩息子は資金を使い果たして、どん底の状態から父のもとに帰ろうと決心しました。しかし父の近くに来た時に、足が進まなかったのです。ところが父の方から息子の方へ走り寄って来られました。世の中の宗教は、人間が神様を追求して求めていかねばなりません。しかし聖書の生ける神様は、神様の方から私達の方に来て下さる御方です。帰ってきた放蕩息子を抱き寄せて、父親は上等の服を着せて宴会を催しました。放蕩息子の父親が、息子を放蕩しなかったかのように迎え入れたように、神様は私達を完全に回復させて下さいます。だから本当に悔い改めをしたならば、いちいち覚えている必要はありません。神様が忘れたと仰っておられるからです。

悔い改めは、神の前に自分を投げ出し、悔い改めに相応しい実を結ぶことです。

① いのちの木の実を食べる

② パラダイスに生きる

イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」(ルカ 23:43)

まさにイエス様と一緒にいるところがパラダイスと言えます。私達はこのように回復されて今地上におりながら、命の木の実を頂くことが出来るのです。

パウロは、ピリピ書で牢獄の中で「私にとって生きるのはキリストです。」と大胆に語っておられます。牢獄にいるけれど牢獄が目に入らない、イエス様という境遇の中に生き続けていることです。

私も、今朝この教会にしながら、イエス様と私だけで礼拝を捧げている、不思議な愛の関係の中に入れられた貴重な体験をさせて頂きました。どんな所でも、私はいのちの木の実を食べ、御言葉を食べ、イエス様と100%一緒に生きている、これがパラダイスだと言えます。

エペソの教会は初めの愛に立ち返った教会です。私達は、イエス様に知られ、見抜かれ、完全に初めの愛に立ち返り、地上の天国を全うさせて頂きましょう！